

— 昼食、休憩 —

— 野外活動のこと —

司会 午後の部をただ今から始めます。在校中のことを、具体的な事柄について、現在の立場から見てこうあったらよかった、というような批判を織り込んで話していただきたい。

まず野外活動は、ハチ高原に始まり、蓼科に固定して来ています。多屋さんの時はなかったですが、野外活動はあった方がよかったかどうか、各時期についての状況を順に話して下さい。雑賀君の時はどうでしたか？

雑賀 ぼくの時是有志の者だけで、全員参加ではありませんでした。夏休みだったか、期末試験の後だったか、はっきり覚えていませんが、ハチ高原へ行きました。3～4班に分かれて民宿しました。ふだんの学校生活から得られない利点があり、友だちや先生とも親密になるし、いろいろ得るところが多かった。

司会 23期はどうでしたか？山本さんか、久保（富）君か、どちらか話して下さい。

久保（富） ぼくらの時はちょうど1学期の試験休みにハチ高原に行きました。100名位でした。

山本 参加はしませんでした、ハイキングが楽しかったとか、キャンプ・ファイヤーがよかったとか聞きました。

松浦 ぼくらの時から全員参加になりました。費用は入学時から積立てました。試験休みか、夏休みだったか忘れましたが、山登りはかなりきつかった。先生方としては、それに耐えさせるのが目的だったようです。全員よかったとの印象を持っています。登山の日の夜、キャンプ・ファイヤーで楽しみましたが、入学後、始めて学年全員が一緒に行動できてよかったと思います。

柳田 私たちの時は全員信州の蓼科でしたが、冷房バスですごくよかった。

武藤 夜走ったんでしたね。

久保（敦） 帰りに、午前2時頃だったかしら、どこ

かのインターチェンジでアイス・クリームを食べた記憶があります。

司会 ハチ高原へは最初是有志。それから全員となりましたが、25期生から蓼科で……。多屋さんの時はなかった……。これからはばらく多屋さんに聞き役になってもらって、他の皆さんに野外活動の印象や感想を述べていただくことにしましょう。

多屋 自然に親しむだけでなく、皆と親睦して何かを得るというの、大きな目的だったろうと思います。そういう団体生活の中で、何か印象に残っていることがあれば聞かせてほしい……。

柳田 クラスの親睦だけなら、何も遠い信州へまで行かなくてももっと近くでもいい。蓼科へ行くのは、単に親睦を深めるためとは違うようです。

多屋 ハチ高原だったらなるほど近いですが、蓼科はたしかに遠い……。

武藤 今年は去年の2泊3日に更に1泊を加えて3泊4日でした。費用は7,700円ほど積立てました。久保（敦）さんらの時、ある地方で深夜事故があり、その後、夜走るのは危ないと思いました。

坂元 私たちの時は民宿だったので、非常に強く印象に残っています。宿のおばさんと仲良く親しんだりしたのが印象深い。

柳田 1年の時は野外活動後、近成先生がアンケートをとられたが、皆食事がまずかったという意見でした。費用を余計出しても、もっといいものを希望していました。お金のことは余りとやかく言う人はいませんでした。

武藤 経済的に皆恵まれているからでしょう。

多屋 民宿だと分宿になるはずですが、何か宿ごとに特色のようなものがありましたか？

司会 25期生は、民宿でなく前半、後半に分かれて城の平スポーツホテルに泊まりました。

多屋 結局、修学旅行とどう違うの？

柳田 修学旅行はデラックスです。

久保（敦） 野外活動ではお互いの性格などがわかって楽しかった……。

柳田 たしかに親睦が深まった。それまでは教室でただ一緒に講義を聞くだけでした。

松浦 24期生は、鉢伏登山が強制だった。出来るだけ観光的な要素を捨て、山を歩いて鍛えるという……。修学旅行も、ぼくらの場合は野外活動を大きくしたような……。とにかく訓練の要素が強かった。

多屋 日程などは自分で計画したのですか？

松浦 一応学校側で立て、指示を受けました。夜の親睦ゲームなどは生徒自身がやりましたが……。

坂元 班別行動の時間があって、班に分かれて自由に好きなこと、したいことがやれたのは割合に面白かった。

司会 ハチ高原での経験を生かして発展されたのが藝科ですが、松浦君、坂元さんは、修学旅行の九州でも山を歩いたのですか？

松浦 台風接近で、予定の九重登山は中止になりましたが、阿蘇では、規模は小さくなりましたが、山歩きをしました。

司会 現在修学旅行は東北ですが、訓練ではなくても、ハイキング的なものが入っています。

久保 (富) ちょっと質問したいのですが、野外活動にも、企画の段階で、生徒の参加が望ましい。ぼくらの場合、先生が一応企画され、そこへわれわれが参加したのですが……。

武藤 キャンプ・ファイヤーとか、夜のホームルームなどは生徒が企画に参加していますが、山登りなどのスケジュールは職員の企画です。危険の伴うものですし、責任を負う立場にもあるのですから……。自由行動の時間は、もちろん生徒の企画が中心になります。

久保 (富) 登山とか、遺跡の見学とか、土地の産業を調べる場合、プログラムを生徒が考えるという、そこまではやってはいないのですか？

武藤 産業の見学ですが、最初の時、会社から見に来てもらってはじゃまになる。困るという連絡がありました。生徒の企画参加といっても、生徒は実情を知らない。当然、先生が下見をする。学校側で企画をした上

で、事前に生徒は紙上参加という形で参加はしています。野外活動の付添いは、今年で2回目ですが、山の縁に吸い込まれるようで、毎年でも行きたい。こういうスモッグの多い都会から、自然の中へ、そして、尖石などの縄文遺跡を見学したりするのはすばらしいことです。加えてクラスの団結親睦など利点が多い。修学旅行となると、観光の要素が多くなり、余り印象に残らないのではないですか。

司会 雑賀君はどこでしたか？

雑賀 鉢伏です……。

司会 参加した者と参加しなかった者との間に何か……。

雑賀 別にどうということもありませんでした。どうやったと聞く程度で、民宿で泊るときはクラス単位でなくバラバラだったので、クラスの団結がどうのとか、帰ってからグループができるのかというようなことはありませんでした。

司会 太田さんは？

太田 私は行きません。なぜ行かなかったか、その理由については記憶がありません。楽しかったという意見は多くの人から聞きました。ハチ高原での野外活動後、クラスの中が変わるというようなことはなく、帰ってすぐ記念祭でだし、行った人と行かなかった人との間には、別にどうということもなかったです。

野村 私の時は600人のうち、わずか7~80人余りで、そんなムードはなかった。

武藤 バスはただの2台だった。……

司会 山本さん、久保(富)君は、行かなかったのですか？

久保 (富) 行きませんでした。

山本 私は行けませんでした。団結のためよかったとの意見は聞いていません。野外活動をしたということの意味は考えられますが、それで協力する、……そのようなことは考えられません。

司会 坂元さん、男女は別行動だったのですか？

坂元 クラス間の交流は割合にありました。私のクラスは、男、女それぞれ一つの民宿で、

クラス全員で行ったから、団結はよく出来ました。他のクラスは合同で民宿するところもありました。

司会 男女の交流の状況は？松浦君、

松浦 キャンプ、演芸会の際は一緒、ほかの時は何やらべちゃくちゃ話し合った程度です。お互い何か心の触れ合った感じはある。その点、眼に見えぬ効果があった。

司会 相葉君は、よかったと思いますか？

相葉 蓼科は、天候に恵まれて、自然の景観がすばらしかった。今も印象に残っています。それなりの意義は認めてよい。

司会 久保(敦)さんは、奈良にいて、名所旧跡が多いが、野外活動では、やはり野外に親しむのが主眼だったですか？

久保(敦) 奈良は俗化しています。信州は、強制的にでも、一度は触れておくのがいい……。

司会 雄大な自然というのは、修学旅行ではどうですか？

多屋 阿蘇の自然はさすがにスケールが大きい。今の人は野外活動は蓼科、修学旅行は東北ということですが、なぜ九州から東北に変わったのですか？

司会 それはほかの先生に答えてもらうことにして……。 (笑)

多屋 近くなる費用は少なくてすむ。親睦をはかるのなら近くでいいと思います。東北は希望でいいのでは……？

司会 野外活動が、学校で段々と強制になって来たのは、学校の意図として、雄大な自然に接しさせるという目的が大きい……。

柳田 私の時から蓼科になったのですが、帰って来ての印象は、よかったとの意見が多かった。それで、次の年も……という風に、続いたのではないですか。

司会 そうなんです。(笑)大自然に触れさせてやろう……そういう機会を知らない多くの生徒に見させようという……。

武藤 ハチ高原は涼しいといっても、このへんと余り変わらない。上田先生の発案で、信州へ行けば本当の自然に接しられる。そういう考え方があった。同じ自然に接するなら、スケールの大きい信州へというわけです。

司会 蓼科といっても、白樺湖の周辺などはすっかり俗化してしまって、いろいろな人が集っていて、それを見るのも一つの社会教育でもあるわけです。(笑)

武藤 今年は白樺湖は素通りしました。(笑)

久保(富) 大自然を歩く。自分が見たこともない花を見、鳥の声をきく。これは非常に素晴らしい。ただ建先生の言われる、生徒に与えてやる、という学校側の姿勢はどうか……。クラスでまとまって野外活動に参加しようという風に、皆で話し合って参加するのがいい。そして、計画段階で、どしどし、生徒が参加していく……。こうありたいと思います。

司会 太田さんは行かなかったが、今の久保(富)君の意見をきいて、どう思いますか？

太田 短大に入って、キャンプカウンセラーをやって、野外活動が意義あるものとわかりました。しかし、600人というような多人数ではどうか、私たちがやっている、100人足らず位の人数だと野外活動が本当に味わえると思うのですが……。

司会 雑賀君の時は、有志だったが、今やっている全員のと比較して、どうですか？

雑賀 場合にもよります。いい場所があればいい。修学旅行は全くの素通りです。同じ場所で何日か過ごすというのはいいいことです。修学旅行の思い出と言えば、旅館での夜のこと。話に花が咲いて睡眠不足、昼間のバスは寝て過ごすといった具合です。野外活動は、別に有志だからどう、全員だからどう、という、そんな事は余り活動そのものと関係ないと思う。個人で信州へ行くのは実際大変だ。そういう意味からも、学校でそんな機会があるのはいいい。冬しか行ったことはないが、雄大な自然を見るということには大きな意味があります。

司会 野村君の意見はどうですか？

野村 行くこと自体、意義はある。ただ計画は、先生に任せるというのではなく、生徒も大いに参加して話し合えば、より充実した野外活動ができると思います。

雑賀 計画段階の参加は先生にも生徒にも負担

になる。自治会をやっている、計画の段階の参加は少数です。計画に参加といっても結局はクラスから1、2名の代表が参加する位のこと。自治会の場合で分かっているのだが、そういう形で計画に参加しても、なかなかクラスの中にまで、広がって行かない……。

久保 (富) 計画がクラスの中に広がらないといっても、先ず実際に参加してやらなければ……。

相葉 計画に生徒が参加出来るか、出来ないか、というその姿勢が問題だ。

坂元 計画段階に生徒が参加というのではなく、3泊4日という長い期間があるのなら、クラス単位で山に登るとか、担任の先生の計画によって、何かをやるとか、それ位のこととはあってよいと思います。私はキャンプカウンセラーをしているので、1日位クラスで好きな事をする。ゲームをすとか、川へ行って魚を取るとか、とにかく徹底的に解放してやる。学校の延長、学校の生活を野外活動に延長するのでは、学校生活と同じです。先ず何より野外活動に対する先生の意識を変えてほしい。集合時間をどうとか、というような事よりも、先生と生徒が互いに親しむ機会にしたい。自由時間を出来るだけ与えて、クラス毎とか、グループとかで、先生を囲んで、といっても、いわゆる先生としてでなく、年長者として持っておられる豊かな人生経験や深い人生観を、生徒ともども語り合えば、師弟間の溝もなくなり、有意義な活動になる。

司会 クラス単位で山登りと聞いてびくっとした。というのは、若い先生であればよいが、私など老境……(笑)に入りかけて、きつい山登りなどには一人ではついてゆけない。

坂元 山登りは、何も高い山へゆくというのではなく、ハイキングであったりしていいので、要は生徒の欲求を満たしてやるのが大切です。

司会 大切ですね。野外活動についていろいろ意見が出ましたが、多屋さんは在校中は野外活動の機会にめぐまれなかったのですが、今の話を聞いて後輩の人はよかったと思

いますか？

多屋 たいへんよかったです。高校から信州へ行ったというのはうらやましい。大学へ入ってから方々へ行きましたが、高校時代から行っていたらと悔やまれます。

#### — 修学旅行について —

司会 野外活動に関して、いい御意見を聞かせて頂いて、ありがとうございました。それでは、修学旅行に話題を移したいと思います。最近の行先は東ですか、以前は24期生までが九州、25期生が北信州、次の学年(現3年生)では、同じ信州ではダブるということで東北へ。今年(現2年)は2年目です。修学旅行は、こうして西から東へ変わったわけですが、さっきの多屋さんの質問に答える資料はありませんが、このことは、教師側の意見だけで、一方的に決めたものではありません。九州旅行は、別府を起点とするわけですが、そこからして俗化して……。多屋さん、修学旅行の思い出はどうでしたか？

多屋 南へは行かず、北九州だけでした。佐世保に泊ったりしました。雲仙に泊っても、山や温泉の様子など充分見る余裕はなかった。私のクラスは、部屋でゲームをしたりなんかして、少しも印象に残っているものはありません。佐世保は名を聞いた行っただけという程度です。

司会 次の学年はどうでしたか？

太田 小学校の時、福岡に住んでいたのが、高校の修学旅行とダブった。阿蘇の景色は、噴火の時だったので登山できず、余り思い出はありません。あそこに行ったというだけで……。旅館で、夜のウシツ時、話がしんを……。翌日のバスは昼間居眠りばかりして……。そういう記憶しかない……。

(笑)

山本 何か、朝、別府に着いて、……

久保 (富) あとは、阿蘇へ行って、熊本なんか廻って、開聞岳へ行って、それから宮崎を廻って来た。それにしても、なぜ修学旅行という名の観光旅行をするのか？バスの中では疲れ果て寝ているし、記憶に残っているの

は、旅館で明け方まで話したことぐらい……。何だか駆け足旅行の感じだった。南九州は新婚旅行で行けるのだし、……(笑) もっとじっくり土地の勉強ができたり、皆と話し合えるようでありたい。

司会 次の学年は九州で山に登ったとか……、  
野外活動の延長だった?

松浦 最初は九重登山が計画されていましたが、台風接近の悪天候で、それは流れ、代りにその日は鐘乳洞や臼杵の石仏を見学しました。翌日、阿蘇で小規模ではあるが、山歩きをしました。長崎ではクラス単位で、グラバー亭に行ったり、造船所を見学したりしました。

司会 印象として、それは強かったですか?

松浦 強かったというのではなく、修学旅行の中に、登山があった、登山をしたという程度です。

坂元 九州に行っても山に登ることはない。このことについて、クラスで大分討論しましたが、先生側に対してはかなり反発があったようです。旅行日数は1日少なかったのですが、瀬戸内海を昼間行ったのは大変よかったです。帰りは列車でした。

武藤 綿密な計画のもとで行なわれたのではなかったのですか?

松浦 吉富先生は、過去の気象データなどを参考にしているいろいろの計画をされたようですが……。学年主任の先生はそれに誇りをもっているらしいようです。

司会 柳田さんらは信州でしたね。ご感想は?

柳田 秋の信州はとってもよかった。山に雪が積っていたりして……。

久保(敦) ですが、やはりダブっている感じがつきまるとして……。野外活動が信州だったものですから……。

司会 山を見ただけなのと、登るのとは違ったのですか?

柳田 眺めているだけでもすばらしいと思います。八方尾根のロープウェイもよかった。

司会 同じような地域に行くということは、修学旅行と野外活動の印象とが一緒になってしまうのですね。

久保(敦) 私は違いますよ。(笑)

相葉 私は一緒ですよ。(笑)

久保(敦) 宿舎でのクラス会に男子から招待されて、リングをむかされて、……(笑)

司会 修学旅行での男女の交流はどうでしたか? カップルの誕生とか……(笑)

久保(敦) 文科系の方がはでだったかしら……。(笑)

久保(富) 個人的なものが多いのと違うのですか? 全体的にはいじけてぶつぶつ言っていた。クラス全体のことを考えると、特定の男女が親しくし過ぎるのはどうか……(笑)

山本 私のクラスの場合、記念祭を団結してやり、修学旅行は、その気分の延長で行きました。皆で歌集を作ったりなんかして……。

記憶していることは、クラス単位でやったことばかり……。九州へ行って海の見えるところ(青島公園)で、フォークダンスをしたり、バスの中でも歌集をひらいて歌ったり……。

男女の交際は余り気にならない。船の中でトランプをして遊びましたが、先生も気軽にうちとけて、皆ざっくばらんに自分をさらけ出して大いに楽しみました。若い先生でした。

司会 どなた?

山本 吉田錬二郎先生。(笑)私の経験ではそれが大変よかった。後々、ホームルームでどう響いて来たか忘れましたが……(笑)

司会 久保(富)君のクラスはどうでしたか?

久保(富) 山本さんのクラスみたいに準備しなかった。ぼくらは歌集を作らなかった。

武藤 鹿児島では、旅館の食堂を借切って遊んだことを覚えています。

司会 修学旅行で先生の隠れた面が出て来て、そういう時、ああこの先生にはこんな面があったのかと、教壇以外の先生の知らない側面を見た、というような経験はありませんか?

雑賀 先生がお酒を飲むでしょう。赤い顔して、メガネをはずして……(笑)ふだんは見かけないそんな先生の姿に親密感を感じました。

司会 親密感が持てるのなら、大いにやらねば……(笑)

— 記念祭 —

司会 今まで聞いたお話の中で、何人かの人から、記念祭があって、それで団結心が盛り上がり、修学旅行でも皆で愉快地過ごせた、というような意見がありました。その記念祭についての思い出を語っていただこうと思います。さいわいこの席には自治会に関係のあった方が多いので、裏話などもまじえてお話ししたいと思います。5年間の真中あたりで、久保(富)君、どうですか？

久保(富) 記念祭に限らず、ぼくらが自治会活動に力を入れてやっているのに、一般の諸君は無関心でいる。ぼくらの視野が狭いということもあるでしょうが、積極的に参加して来てくれない。そういう芦高生に対して不信感を持っていた。それでいて、記念祭になると、われわれは前夜祭において、皆が騒動を起こさぬようにとか、終幕祭ではまず第一に生徒対策に迫られる。毎日の高校生活を充実させ、問題を見つけ出して来て、自治会活動を有意義にできれば、たとえ記念祭がどんちゃん騒ぎであってもいい。毎日の生活がほんとうに充実していれば……。

司会 相葉君、君は曾我君が会長の時、書記長でしたが、苦心のほどはどうですか？

相葉 執行部が成立したのは、9月で、縮小された形での記念祭でした。記念祭のとらえ方は、何よりも楽しくやろうということ。お祭りというか、皆で楽しめればいいという考え方……。むつかしいことは余り考えなかった。

司会 久保(敦)さんは、フォークダンスの司会をやったですね。

久保(敦) いいえ、合唱コンクールの司会です。大分もめました。講堂に全部入れない。全員参加できる講堂の設備さえあればと思いました。

司会 講堂が全員入れないというのは、全く致命的です。講堂を使わねばならぬ催し物について、場所を考えたことはありませんか？

久保(敦) 春の文化祭には、西宮の市民会館を借りたりしましたが……。何といっても、全員参加が望ましいと思います。

司会 野村君、一自治会員として、記念祭の中へ溶け込んでゆく場合のことを話してみして下さい。

野村 ぼくは、記念祭では吹奏樂しか演奏しなかった。自治会執行委員のしんどきはわかりますが、執行だけが記念祭をやる印象が強かった。他の者は家へ帰って寝ている。クラスの活動に視点を向けるようにしないと、記念祭も自然、低調になってゆくのではないか、門外漢の意見ですが……。

司会 多屋さん、記念祭についての印象は？

多屋 1年の時は、合唱コンクールは、全校で一位でした。招待劇で「守銭奴」を見たのが印象に残っています。2年、3年の合唱コンクールは余り印象に残っていない。記念祭の細かい内容はほとんど忘れてしまいました。

司会 記念祭の内容は在校中の思い出となりますか？

野村 わりと皆楽しんだのじゃないですか。

多屋 記念祭の時の文化部の発表で、あの人はこういうことをしていたのかと知らされて、認識を新たにしたり……ということもありました。

司会 友だちの隠れた一面を知ることですね。

久保(富) 記念祭の時、雑賀さんから、クラスとして参加する行事が増えるのは、非常にいいことだという意見を聞いたが、流れとしては、文化祭から、クラス単位のものの発表というふうに移って来ています。

司会 それが体育祭のデコレーションとか、クラスの得点に表われていますね。

柳田 デコなどを皆でやったりすると、ほんとうに記念祭をやったという印象が深い。

司会 ユニフォームなどはどうですか？

柳田 あれはいいと思います。

雑賀 合唱コンクールは皆参加した。何かやることがあれば皆参加できる。講演会とか、誰かを呼んで歌を聞くことよりも、デコレ

ーションとかユニフォームとか皆で遅くまで一緒に何かをやったことが印象に残ります。ユニフォームですが、皆で着て出られると思ったのが、応援席だけで、競技ではいけないということだった。大分抵抗を感じました。代議員会で決まったのに、体育科の先生から横槍が入って……。自治会は久保(富)君がやっていますが、体育科と自治会との間に立って、随分御苦労でしたが、とにかくそういうことが印象に残っています。抑えられて黙っているのではなく、反発したのはよかった……。

柳田 綱引のとき、3年生のうちのクラスの一部の人たちが、手伝いに行くと叱られたりして……。

久保(富) 体育科の先生と、ぼくらの考え方との間に、食い違いがあった。体育祭でユニフォームを着たから、一生懸命に走らない、というようなことはない。綱引する時なんかユニフォームを着てやるのは問題ないと思うのですが、体育の先生はピッチッとやるんだと言われる。だんだんユニフォームも問題がなくなっているのではないですか。

司会 体育会でなく、体育祭なのだから……。山本 遅くまで残されて、体育の先生から言われた。きびしい練習の成果を見せるのだ、面白いユニフォームを見せるのではない、と……。

久保(富) 相葉君の頃から、執行の……。相葉 あ頃から執行の役割が逆転した……。久保(富) 皆が何かをやるという考え方が、記念祭だけでなく、自治会活動全体を通して能動的に参加しなければならないということを感じました。

司会 能動的とは……？

雑賀 たとえば、独唱会で友竹さんと呼ぶとか、武庫川女子大の体操部と呼ぶとかいうのではなく、自分らでやるという参加の仕方です。

相葉 自治会の中では、そういう考え方が定着しています。

松浦 しかし、実際の参加人数は少い、クラブで文化部なんかの入部者も少い……。

司会 まだまだ記念祭について、色々話題もあろうかと思いますが、時間もかなり経っていますので、記念祭の方はこれ位にして、それ以外に、印象に残ったものを今しばらく話していただきたい。

(野村君退席)

柳田 春に文化祭がありました。主な行事として、サークルダンスのことをやらされましたが、皆の協力がなかなか得られなかった。フォークの輪がやっとできた頃には、終幕祭が始まるといった調子で、全く泣かされました。

司会 そういうことは多分にあります……。自治会員の意識を高める方法としては、他にたとえば県西との定期戦があります。今年は雨で流れましたが……。他に在校中の思い出はありませんか？

柳田 3年間しょっちゅう聞かされたこと、昔の芦高生は、こうこうだったと聞くのはつらかった……。

司会 一部の先生でしょう。(笑)

久保(富) そんなのは余り意味がない。社会も変わるのだから、生徒の意識も当然変わって当たり前だ。何かをやろうとしたら、体面や世間態なんか考えておれない。芦高がああいうことをやるから、入ってくる生徒の質が悪くなる……。 (笑) そんなことを言うのはよくない。騒がれることを抑えても進歩はない。一人一人考えることによって始めて成長がある。世間の評判なんかたとえよくても大した意味はないですよ。

久保(教) 服装の自由化ですが、先生もよく承知されましたね。ある先生に聞いたら、いいや、あきらめムードさ、とおっしゃったが……。

司会 職員会議の了承がなければ、もちろん認められない。職員会議は生徒大会の議決を尊重して、そうしてやろう、ということに決まった。

武藤 生徒の方で、ながいこと審議をやって来ているのだから……。

司会 今までの芦高生のやり方は、他校がやっていたから芦高も、というムードはなかった。芦高独自のものを切り開いて行くという

意欲があった。服装の自由化は時代の趨勢です。

**久保(富)** ぼくは目先のことを追い求めすぎたように思います。服装などよりもっと大事なことがあったはずなのに……。

(久保(富)君、退席)

#### 一 再び芦高の自由について 一

**山本** 1年の時にワンゲルに入りました。キャンプで、女子は適当な指導者がなく、参加を断られました。野外活動は自由参加でしたが、クラスでまとまって、ユースホステルを利用して宿泊旅行をしようとしたのですが、適当な指導者がいない。付添いの先生の人数が足りない、そんな理由で、せっかく生徒の意思で決めて、楽しんで計画を作ったのがだめになったことがありました。生徒の自由性が抑えつけられたということで、皆不満を持っていました。記念祭などで、ふだんは温和しい人が、すばらしいアイデアを出したり、親しく話し合ったり、皆で本当に仲良く立派にやろうとしているのに、断わられたりすることがある。規則、校則に対する自由なんかはつまりません。私らの欲している自由は、自由を認めてもらえる自由なんで、それがあればすばらしいと思います。

**雑賀** 自由を認めるといっても、先生の側において、他校との関連とか、教育委員会とか、いろいろ制約、あるいは圧迫はあろうと思いますが、できるだけ多くの機会に自由を生徒に与えてほしい。

**多屋** この頃の生徒は成長が早いですが、私個人から見ると、高校生は何ととっても未熟だし、干渉はしなければならぬ。服装の自由化には私は反対です。服装にばかり頭が働いて、他の面が伸びない。他の社会にだって、皆規則がある。社会に出るということは、規則の中で生活するということです。学校には学校の秩序があり、その中で自由を身につけるのが大切です。高校生は高校生らしく、秩序の中で自由を身につけて欲しい……。(笑)

**雑賀** 秩序、規則は何のためにあるのか？本当

にそういったものは必要なのか？多くの人がこれについて疑問を持っている。そこに一連の高校、大学問題が出てきた。服装を自由にすると、それに気が移ると言われたが、大学の場合を見ると、服装に気をとられて、勉強しないというようなことは余り心配いらぬ……。

**相葉** 規則の中で自由を……と言われるが、規則を無視したところで、自分を伸ばすということだってある。

**柳田** 服装の自由化は、後になってみれば、それがかえって、高校生らしくなるのではないかと私は思います。

**久保(敦)** 高校生の場合は、服装は自主的に判断して、自由な服装に変えていっていいのでは……。

**柳田** 服装の自由化は、今後さらにいろいろな方面にも波及して、変えて行くようになる。そのきっかけなのか？他の事もどんどん変わっていくのでしょうか？

**松浦** 多屋さんの話に、ぼくは同感です。服装の自由化は行なわれたが、一人一人どういう気持ちでいるか、それが問題です。ほんとうに自由だなあと感じられるような雰囲気こそ大切だと思います。

**相葉** 雰囲気だけが自由としてあるのではなく、服装の自由化も、そういう気持ちの表われです。

**松浦** 芦高3年間の先生は、余りにも解かりがよすぎた。生徒は先生の指導をますます必要としている。先生は生徒の言うことを尊重し過ぎだと思えます。服装の自由化にしても、それをいい方に持ってゆく先生の指導が望ましい……。

**雑賀** 自分がいかに生きて来たか？どんな環境に育って来たか？そういうものが、どんな方向に向かって行っているのか？自分が知らぬうちに方向が決まれば、どうしようもない。第二次大戦が始まった時は、天皇が一番偉い……と教えた先生の言葉を皆素直に受入れた。上の人が言ったから正しい、ということはない。一部の人が誤まった方向に人々を導くこともあるのだから、気を



付けるべきなのだ。

久保  
(敦) 芦高の反体制運動は純粹ではない。外から見てみると、ひどくまねごとみたいです。服装の自由化は、自由を求める意味でいいかどうか？私はうわついているのじゃないかと思います。

雑賀 自分を見つめると同時に、全体をみつめめることも大事だ。

相葉 今日教育の問題は、芦高だけの問題ではなく、日本全体の問題で、一人一人が責任を持つというのは、憲法の精神でもある。自分さえよければという気持を捨てて、自分のできる範囲で、責任を持ってやるのが大切です。

多屋 クラブ活動が最近低調になって来ていますが、今の高校生は、皆クラブに入らなければいけないと思います。なぜクラブが低調化して来たのか、よくわからないのですが……。

松浦 ぼくの意見は、クラブに全員一年間強制的にでも入れてみてはということ。勉強だけが学校教育ではないはずですから……。

雑賀 クラブに入部強制というのは、徴兵制に似通っていると思わない？(笑)

松浦 思わないでもないが……。 (笑)

雑賀 進学率で高校を見る、これが世間の常識だが、芦高がそれにこだわらないのは、えらいと思う。

司会 他校のことは、うちの先生は見向きもしない。芦高生はどうあるべきか？芦高生はかくあるべきだ。こういうパイオニア的なものを職員も生徒も持っている。

芦高の、その秘めたるエネルギーがどこにあるのかということは、はっきりと口に出して言うことはむずかしいですが……。とにかく大なるエネルギーが芦高の中に秘められているということです。

太田 よそがしているから、われわれも……というのではなく、雑賀さんの言っているように、自分を掘り下げてゆく、というあり方は大いによいと思います。

司会 坂元さん、以上に関連して何かおっしゃりたいことはありませんか？

坂元 自分のしたいと思うことをつきつめて考える必要があります。障害があってもやるという根性。ほんとうに高校生活が充実しているかどうか、悔いのない高校生活を堂々と主張してほしいと思います。

柳田 私が特に言いたいことは、芦屋高校は予備校化していないということです。この点は積極的に評価すべきだと思います。勉強しないというのは、もちろん別物です。

山本 建先生の言われた通り、芦高生はパイオニア精神を忘れないこと。与えられた自由でなく、もっと自由を求め、自分でその責任を負うこと。3カ年の間、受験受験と言われなかったのがよかった。わりとのんびりしていたのがよかったと私は思います。

— 言い残したこと —

司会 何か言い残したことがあったら、どなたからでも……。これはぜひ言っておきたいというようなことを……。

柳田 どんなことでも考えつめて行けば、必ず矛盾に突きあたる。壁にぶつかっても、どこまでも考えるということ、芦高時代にやるべきです。

坂元 今、山本さんは受験受験ということもなく、のびのびやっと言われたが、私の学年の場合は、能力別クラス編成が行なわれ、成績発表などが行なわれて、受験受験の印象が強かった。3年の時は、そのために、友人関係やら人間関係がまずくなり、すごく寂しい思いをしました。学校のそういうやり方に対して、何も反発できなかった。誰も余り文句が言えなかったのがやはり残念です。

松浦 進学 進学と言わないのが、スローガンになってしまっただけは、いいことではないと思います。よそでやってないから、うちもやらないというのは、社会に適應できない人間が生まれるかも知れません。

久保  
(敦) 武藤 倫社は社会科でやっておられますか？  
やっていますよ。(笑) 40年頃、カリキュラムが改訂になった。しかし、本校では倫社を独立させずに、たとえば、世界史の中では、ソクラテス、プラトン、アリスト

テレスや、孔子、孟子などその時代の文化を授業する時に倫社の教科書を使って取上げており、日本史の中でも同じことをやっておられると思います。

司会 久保(敦)さんの意見は体系的なものを……というのでしょうか？

久保(敦) 自分でやると言ってもできないし……。

司会 私の時は倫社はなかったが、本を買って来て読んだ……。

久保(敦) 大学に入るとわかったものとして、どんどん出てくるので、とまどってしまいます。

太田 2年の時、倫社はありました。命題を与

えられて、書いたのですが、先生はそれに対していろいろ批評を書いて下さった。

司会 話は尽きませんが……、大変有意義なお話をたくさん聞かせていただきました。もっともとお話し合いたいことがたくさんありますが、一応これで座談会を閉じさせていただきます。みなさんのご意見は、在校生その他にも伝えて、広く今日の話題に取上げ、芦高の将来の発展に資したいと思います。どうも長時間ありがとうございました。

(記録・飯尾和夫)

## 理想的学園像

(芦高 15 年史・生徒手帳記載)

われわれは、文化的、民主的で、平和を愛好する社会形成者となることを目標とする。

そのためにまず

心身ともに健康で、研學に励むとともに、趣味を養い、奉仕を喜び、責任感の裏付けある、自主的な生徒になることに努める。

かくてわれわれのえがく理想的学園像は知性豊かに、気品のかおり高い若き生命が躍動する、清新はつらつたる学園でありたい。

およそ学校の盛衰はその生徒間における愛校心の消長によると思う。愛校心は名誉を重んずる、愛校心は自重を促す、愛校心は責任を感じる、愛校心は努力を呼びおこす。絵のような六甲連山、紺碧の大阪湾、青い松、光る砂、住み心地よい健康地、かかる郷土に美しい学風が生まれぬはずはない。親愛なる生徒諸君！愛校心を燃やせ！そして特色ある学風を創造せよ。

(新制高校発足式における阪部校長訓話)

およそ学校の真価は、上級学校に入学した数によって決定されるべきものではなく、卒業生が社会でいかに活躍するかによって定まる。……本校のスポーツが衰える時、それは本校校風の衰微する時である。体育運動を盛んにすれば、従って気力も盛んになり、学問も向上するのである。

(阪部校長退任の辞)

他校にみられない自由の伝統はますますのぼし、自由と規律の共存をめざすことが本校として、もっともたいせつである。

(大橋校長の昭和 39 年度の始業式訓話)